

会議名	令和5年度 第2回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開催日時	令和5年11月14日(火) 午後1時30分～3時50分
開催場所	市役所東庁舎2階 第10・11会議室
主催	生涯学習課
議題	◎あいさつ 協議事項 1 令和5年度主要事業中間報告について 2 令和6年度主要事業に係る取り組みについて 3 その他
出席者	【委員】 山内晴雄、吉川光彦、大野芳樹、定行加保里、大室有美、服部みどり、栗林芳彦、牧修、藤田美知子、牛嶋みゆき、内藤伸一郎、松原正明、犬飼文崇 【事務局】 教育長、部長、生涯学習課長、スポーツ課長、図書館長、美術館長、各課主幹、主査、社会教育指導員、主事 計14名
備考	

【会議概要】

◎あいさつ

(教育長)

- ・第2回社会教育委員会出席御礼。
- ・様々な所で、人手が足りない状況だと実感することが多くなってきた。これから先は、今までやってきたことや、こうやりたいということだけでは、なかなか上手く回らない時代が来るかもしれない。
- ・本日の会議には、様々な立場の有識者が揃っているの で、これから考えなければいけないことやもっと工夫すべきことなど、様々なことを聞き、実際の施策に生かしていきたい。

(委員長)

- ・出席御礼。
- ・人口ピラミッドの問題や人材不足の問題がある。また、コロナ禍を過ぎ振り返ると、社会の中でひずみが出てきてしまった。このまま行けば大変なことになるということは生涯学習推進会議検討委員会でも話題にしてきた。
- ・市民や住民から今までなかったような要望や意見が出てくるのではないかと思う。そのため学校現場はさぞかし大変だと思う。改めてお互い様の地域づくりをしていかなければいけないと思う。

・本日の会議では各課から、特に今年度で課題になったことやこれからこうしていきたいということを中心に説明をお願いします。

・生涯学習推進計画がちょうど見直しの年になる。特に今年は、コロナ禍を経て様々な問題が表面化した。重要事業のあり方や他の事業のあり方でも見直すべきところはあると思う。

◎議題

1 令和5年度主要事業中間報告について

資料1について各課より説明（生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順）

（生涯学習課）

・地域学校協働活動事業では、推進員の委嘱を行い、地域とのコーディネーターとして活躍をお願いしている。現在32校中19校、18人に委嘱している。

・部活動の地域移行に関しても、地域や法人等の力が必要になる。また、令和8年度を目途とした地域移行に向け、学校教育課にて、稲沢市部活動地域移行検討委員会を組織し、移行日よりなどの広報誌やアンケートを実施する。

・国の委託事業として、文化部活動の地域移行推進事業とし、今年度のみだが、治郎丸中学校を対象に、稲沢市民吹奏楽団の協力を得て、年間約40回の指導をお願いしており、生徒や学校から大変好評を得ている。

・昨年度から実施しているDXの推進として、今年度も寿教室で実施しており好評を得ている。

・公民館事業については、伝統的な習い事である「お茶・お花」が、少し低迷している。ただ、伝統的な日本の文化事業であるので、一概に少ないからといって廃止はできないと考えている。

・稲沢市総合文化センターの廃館に伴い、稲沢東公民館に小正市民センター機能を移転した。

・稲沢東公民館については、来年度にトイレの改修工事を実施予定。これにより4月の1か月間、公民館の利用停止を行う。なお、2階の料理室については、水回りの影響により7月までの4か月間利用ができなくなるので御承知いただきたい。

・文化振興事業では、春の芸術祭で市民茶会が4年ぶりに復活した。稲沢音楽祭については11月12日に開催し、今回冒頭で説明した文化部活動地域移行推進事業により、治郎丸中学校ブラスバンド部が、特別出演及び演奏発表ということで、今年度のみとなるが音楽祭においてコラボ演奏を行い、一般市民の来場者から大変好評を得た。

・文化グループ発表会については、今年度から文化関係の専門機関として、文化振興指針で位置付けている稲沢市文化振興財団に委託事業としてお願いした。今回は昨年度から実施している天井落下防止工事の関係により、例年は中ホールだが、今年度は大ホールを会場とし2日間での開催となる。

・蒸気機関車一般公開については、例年2回目を稲沢まつりと同日に開催しているが、移動手段がなく同日開催のメリットがなかなか見つけることができないため、地域での

見学会に合わせ開催をする。鉄道ファンを始め多数の見学者を見込んでいる。

- ・文化財補助事業については、周年事業である市制65周年記念「稲沢の文化財展～性海寺の文化財～」を実施した。これは市指定文化財であった密教で扱う灌頂道具と金銅宝冠が一式で県指定の文化財になったことを受け、メイン展示として、他の指定物件も含め、19点で展示した。

- ・中高記念館公開については、一般質問で昨年度、中高記念館のあり方について質問があり、昨年度から中高記念館の公開に合わせ特別展を実施している。

- ・文化財保存修理事業については、今年度2件実施した。2件とも市指定文化財、山車の太鼓については、7月29日に行われたこがし祭りで修理を行った太鼓の音が新しい音で鳴り響いた。2番目の尾張大国霊神社（国府宮神社）については、茶室の半床庵の修理事業を行い、屋根の修理を行っている。こちらも事業は完了し、はだかまつりが終わった1週間後に行う儺追茶会の折に使用予定となっている。

(スポーツ課)

- ・着衣水泳指導の実施については、小中学校から実施の希望が非常に多い。今年の夏も大変暑く、全国で痛ましい水難事故が発生しているため、継続していききたい事業だと思っているが、スタッフ不足が理由で、来年度以降の継続が難しいという話を伺っている。来年度の実施について、協議していききたいと思っている。

- ・地区体育振興会について、今年度は各地区で運動会が再開されつつある。しかし、課題として、コロナ禍により事業の縮小や運動会を3年間実施していなかったことで、役員が持ち回りで交代されて、経験者がいなくなったことなどにより、体育振興会の運営自体で非常に苦勞されており、特に地区の運動会の実施が非常に困難になっている地区がある。

- ・現在は各地区体育振興会に運動会などを実施するための補助金を交付しているが、6種目以上の運動会及び3種目以上のスポーツレクリエーションの両方が補助の必須条件になっている。今年度開催した体育振興会の会長会においても、運動会の実施が難しいため、スポーツレクリエーションだけの実施でも補助金が交付できるようにして欲しいという意見が複数出された。スポーツ課では、各地区体育振興会の現状をそれぞれ聞き取りし、確認しながら今後の運営方法や補助の対象、内容の見直し等について、現在検討を進めている。

- ・第35回稲沢シティーマラソンは一昨日、11月12日に開催した。当日は特別ゲストとして、ウルフドックス名古屋の現役選手、山田脩造選手と、チームマスコットのウルドくんにお越しいただき、参加者は1,666人だった。また、今回、市制65周年記念のお祝いとして、TGスポーツ株式会社様から、このシティーマラソンの参加者に対し、シティーマラソンの前日と当日のウルフドックス名古屋の公式戦で、ゼッケンを持っていくと、無料で観覧できるという招待をいただいた。

(図書館)

- ・令和5年度上半期の図書館状況について、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、感染拡大予防対策を少しずつ縮小している。ただ、

5類移行後も、夏ごろのコロナの再流行や、今後も継続が予想されるインフルエンザの流行に配慮して利用者の近接する閲覧席については、一部間隔を空けた状態を維持し開館している。図書館で開催している各種事業に関しては、事前申し込みによる定員数の縮減を継続しているものもあるが、概ねコロナ禍前の事業展開に戻ってきている。

・AV館内利用については、令和4年10月に中央、祖父江の森の両図書館で館内利用を再開した。平和町図書館については、館内の混雑緩和のため、引き続き貸し出しのみの運用となっており、館内利用の実績はない。

・電子書籍については、徐々に資料数を増やしていく計画であり、様々な場面において利用拡大に向けてPR活動を推進していく予定。また、今年度は1月に図書館システム更新があり、ほぼ1か月全館休館となるため、この時期に電子図書館を活用いただくよう、12月に新作資料の提供を予定している。

・図書等無料配布会については、昨年までの感染防止対策により往復はがきによる事前申し込み抽選制をやめ、今年度は当日先着順に整理券を配り、御参加いただく従来の方式に戻して開催した。

(美術館)

・美術品の購入について、絵画2点を購入した。「ポスターの壁」は、制作年は1930年、戦前の貴重な作品で、極めて稀な代表作になる。「鍵屋」は、制作年は1966年、戦後一世を風靡した抽象表現主義を部分的に取り入れた作品で、当館では本作のような作品を所蔵しておらず、荻須画伯の画業を体系立てて紹介する上で重要な作品である。

・企画展「磯野宏夫展 ー生命輝く森ー」については、会期中に台風の襲来や電気設備の不良で計2日間の臨時休館があったが、多くの方々に来館していただいた。

・来場者アンケートを分析したところ市内だけでなく市外県外からの来館者も多く、全体の57%を占めた。新聞広告をはじめ、SNSや所蔵企業のYouTube発信など、紙媒体以外の広報活動にも注力したことが功を奏したのではないかと思われる。来館者の約4割が10代から30代で、例年に比べ、当館としては家族連れや若い年齢層の来館者が多かった。当館に初めて足を運んだという人も51%と約半数を占め、長年の課題である新たな客層のアプローチに貢献できたことはいずれもうれしい成果だった。

・企画展ではフォトスポットコーナーを設置した。段ボールで作られた熱帯雨林の動物を主にした展示業務を稲沢市出身の造形作家に委託したものとなる。作品に触れない限り自由に撮影していただいた。また、SNSの広報活動として撮影された写真をSNSにアップされた方々に、先着順で磯野宏夫作品が掲載された紙製のファイルをプレゼントする企画を行ったところ、120人ほどの来館者に御協力いただいた。

2 令和6年度主要事業に係る取組みについて

(委員長)

・続けて議題2 令和5年度主要事業に係る取組みについて説明をお願いします。

資料2・3について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

(生涯学習課)

・取組みシートの明治公民館の新築事業について、機構改革では発表されたが、公民館事業については、地域協働課に移管することが現段階で予定されている。そのため6年度については、この事業を移行する可能性もある。

(スポーツ課)

- ・昨年度の目標に、アジア競技大会事業及び部活動地域移行の推進を追加している。
- ・部活動の地域移行の推進については、学校教育課が中心となり、今年度よりスポーツ団体や文化団体の代表者、教員や保護者の代表等によって構成される稲沢市部活動地域移行検討委員会を立ち上げ、今年度は2回実施をした。子どもたちが継続して活動できる地域移行を検討していく。
- ・稲沢市部活動地域移行だよりを小中学校に配布をした。また、アンケートについて、小学校5年生から中学校2年生の児童生徒、それから保護者、教員にアンケートを実施し、2月に結果が出る見込みとなっている。
- ・体育施設維持管理及び整備事業については、令和5年度から7年度にかけて各施設の照明設備のLED化を進めていく予定となっている。
- ・取組みシートのトップアスリートとの交流事業について、バスケットボールチーム豊田合成スコピオンズの巡回指導については、調整がつかず今年度は実施できない見込みとなっている。なお、非常に残念ではあるが、このバスケットボール豊田合成スコピオンズは先週11月8日に今シーズン限りでB3リーグを退会することが決まった。今後のチームの活動や存続については、現在のところ未定とのこと。
- ・ウルフドックス名古屋、豊田合成ブルーファルコンの市内中学校部活動への巡回指導やウルフドックス名古屋現役選手の職場実習は、今年度と同様に実施を予定している。
- ・課題については、この巡回指導は、チームとの日程調整が難しい状況もあるが、トップアスリートと触れ合いは大変貴重な機会であるため、継続して事業を実施できるよう協議、調整していきたいと考えている。また、部活動の地域移行についても、可能な限り御協力いただけるよう協議をしていきたい。
- ・第20回アジア競技大会（愛知・名古屋2026アジア競技大会）について、アジア大会は先日、中国杭州で派手に開催されたが、愛知・名古屋大会では、近年の資材価格の高騰により、簡素で華美でない大会を目指すこととなり、選手村の建設がなくなり、また競泳が東京会場に変更されるなど大きな変更が生じている。
- ・ハンドボールの会場が豊田合成記念体育館「エントリオ」に会場が変更された。
- ・稲沢市が競技会場となったので、来年から大会組織委員会へ職員を3年間派遣する。

(図書館)

・取組みシートの子ども読書活動の推進（稲沢市子ども読書活動の取り組み）についての課題としては、第3次計画期間中に新型コロナウイルス感染症の拡大、ICTの充実などにより、子どもを取り巻く環境が大きく変化し、子ども読書活動推進計画にも少なからず影響を与えている。したがって、新たな計画策定にはこの点に留意し、実効的な計画の策定を行う必要があることを念頭に今後事業を進める必要があることが挙げられる。

(美術館)

・今年度から導入したクラウド型データベースシステムを利用して、荻須画伯のデータベースの構築に取り組んでいく。その付随システムである作品の音声ガイドシステムは、現在開催中の荻須高德展から利用できるようになっている。

(委員長)

・国も地域学校協働活動を進めていかなければいけないと言っている。ところが、この地域学校協働活動というのはなかなか理解されていない。学校に関わっている方は学校評議委員会があって、現在は学校運営協議会ができて、そこに今度は地域学校協働活動のことで、どうするのかという印象を持っているのではないか。

・目の先の事業はものすごく量があるし、進めていかなければいけないと必死になっているが、これから先がどんな社会になるかということを見なければいけない。

・現在、実施している事業をこのまま続けていいのかと感じないわけではない。様々な意見があると思う。質や方法を変えていくということもあるかもしれない。そういったことで、委員から感想、御意見、評価などをいただきたい。

※質疑応答

(A委員)

・美術館だが、磯野宏夫さんの展覧会で、非常に多くの方が来館されたということで。観覧料が小中学生100円とあるが、確か小中学生は観覧券が無料で配布されたのではないか。

(美術館)

・数年前から市内の小中学生は無料となっている。保護者についても小学生に対しては付き添いが1人は必要なので、保護者にも1名は無料で観覧いただけるようパンフレットを学校通じて配布している。

(A委員)

・前回、小中学生の来場者数が少ないというのが課題ということだったと思うが、こうした機会に学習活動の中で荻須記念美術館の見学というのを、身近な地元の名士ということで磯野さんの特別展の時にあったら、よかったなということの後になって思った。今後、こうしたことも取り入れていただけたらと思う。

・フォトスポットコーナーで来館者がSNSで発信されるので、すごく効果的だったと思う。若い方も4割、市外からも5割、初来館者も5割と素晴らしい成果だったと思う。これからもどんどんこうしたSNSの活用をして、今後の展覧会にもつなげていただけたらと思う。

・先日、長谷川潔展に行かしていただいた。長谷川潔さんの作品の都合もあると思うが、照明が暗かった。デッサン画なので鉛筆の黒をより強調させるためにそうだったと思うが、実際、少し老眼になってくると、字も読みづらく、目も見にくいということで、作品も書いてある文字も見にくいということを素直な率直な感想として述べさせていただきます。

・以前提案させていただいたと思うが、イヤホンガイドが導入されていた。一般的に大きな展覧会に行くと、イヤホンガイドの機械をいくらかで貸し出して、自分でチャンネルをあわせていくものだが、荻須記念美術館では、美術館のサイトから自分で選択するので、自分のスマホで全て操作ができ、耳に当てて自分のスマホを使える。貸していただくのは誰が耳に挿したかわからないので違和感があったが、自分のスマホで完結できて、無料で聴くことができるのがすごくいいと思った。ただ、音を聞くのにスマホから音を聞くので、小さい音にして耳に当てるか、または自分のイヤホンを持っていればいいが、少し部屋も狭いので、周りに気を使ってしまう。それでも画期的で素晴らしいことと思う。新しい作品も解説が何度でも聴けるので、今後もますます荻須記念美術館に多くの方が来館されるといいと思う。

(B委員)

・生涯学習課のところで、家庭教育学級が毎回金曜日の開催で、行きたかったが、仕事がどうしても休めなくて行けなかった。これも対象が小中学生の保護者さんで働いてる方が結構いらっしゃるのではないかとあって、土日に開催ということはできないか。

(生涯学習課)

・こちらの講座については、受講者に一番参加しやすい曜日を聞いている。先ほど言われたように土日の開催を要望する方はあるが、土日に開催すると参加者がとても少なくなる。講師に申し訳ない気持ちが高くなってしまいう実例があるため、受講者が一番参加しやすい曜日というものを当てにして開催している。

(委員長)

・人員が少ない中で、予算の問題もある。人材不足の話もしているが、いい地域社会を作っていくために、何かいい知恵が出てこないか。それから、子育て支援課との事業の兼ね合いはどうなってるかということもある。

・不登校の問題もある。不登校の児童生徒数というのが増えた。学校の努力は多大で、私どもが退職する前より今の方がきめ細かい。だけど、児童生徒数が減っているのに不登校の割合が増えている。不登校の子やその親をサポートする民間の活動もある。こういうところの連携はどういった方向がいいのかというのがここで協議することではないか。

(C委員)

・人手不足ということと子育てのお手伝いしてくれる人がいたらいいと思う。関市のシルバー人材センターに視察に行った際、シルバー人材センターの活動があり、その中に「ばあば」という会員が、子どもと一緒に遊ぶといった仕事を請負っているという話を聞いた。資格はなくても講習会を受けて、小さい子のお母さんとかの悩みを聞いたり、子守をしたり、今までの経験やキャリアを活かしている。そういった話を聞いて、人手不足の話もあったが、シルバー人材センターに頼めば、お金の方も多少は安くできるのではないかとあつたので参考までに発言した。

(委員長)

・稲沢市民の中で問題を抱えた人が多くいる。ここにどのように学びを持っていくか。

限度はあるだろうが支援の手を差し伸べるのか、何かいい手はないか。

・人材が多いかといえば、高齢者ばかり増えていく。若い人たちで支えるのは難しい社会になってきている。そうすると、事業見直しで何か一步踏み出せないか。

(D委員)

・市との連携というところで、高校があまりなく、地域連携と言われつつ、高校が全然開かれていないと思った。どうしても県の職員になるので、目が県の方に向いてしまうところがあるが、声をかけていただければ様々な協力ができると思う。例えば生徒を連れて行くこともできるかもしれないし、逆にちょっとした講座であれば、教員が出かけていくということもできるかもしれない。様々な専門性を持った教員が高校にもいるので、気軽に声をかけていただければと思う。稲沢市内にも県立高校いくつかある。稲沢東高校は来年で閉校だが他にもある。市から校長に声をかけていただければ、市内にある県立高校の校長のネットワークのようなもので相談することもできるので、ぜひ声をかけていただきたいと思う。

(委員長)

・いいお話。稲沢市から頼まれればということだが、NPOだったらどうか。

(D委員)

・学校の事情や校長がその学校でのことについてどう思っているかにもよると思う。去年、NPOとは違うと思うが、オリーブさんからボランティアみたいな形で、子どもたちの相手をする高校生がいなくて声をかけられて、生徒会で話したら何人か行きます。ということ出かけていった生徒がいた。このような形であれば十分連携はできると思う。

(E委員)

・様々な課が一生懸命やっていたのはいいが、市役所も人材が減ってきているという話を聞いている。そうであればやはり工夫をする必要がある。行政がやらなくても民間でやっているところがあれば、そちらに補助するといったことを考えなければいけない。

・中間報告をいただいたが、来年度に向けてということもあるので、この事業の中でこれは止めるよといった決断もそろそろ必要だと思う。他の課にお願いできないかとか、または連携するとか、そういったこともそろそろ考えないといけない。いいことだから減らしにくいけど、いつまでも踏ん張ってはいけない。

(委員長)

・稲沢市の特色というものを踏まえながらそれを活かしていこうという提言はずっとしている。

・これから高齢社会になっていく。元気な高齢者たちに参画してもらうということは大事なことではないか

・間もなくやってくるかもしれない大地震に対する学びはどこでやるのか。防災ボランティアに任せたらいいのか。社会教育委員会で提言をしても、学習を進めていく場としての公民館がない。

(F委員)

- ・小学生の時にスポーツをやっていたが、中学生になってそのスポーツがあまり稲沢市としての取り組みがなかなかないというのを聞いていて、どこでスポーツするのかと聞くと、市外のクラブチームに出ていっている。
- ・稲沢市出身で例えばプロスポーツ選手が出たとしても、稲沢市出身でも稲沢市で活動していなかったというのと、稲沢市出身で、稲沢市で活動してプロになったというのでは、やはり市としてのネームバリューというところも変わってくると思う。
- ・中学校は各中学校でトップアスリートの交流事業をしていると思うが、小学校単位でやるのは難しいと思うので、例えば陸上競技場で、市内の小学生集めてこういうことやったということをどんどん発信していくと、稲沢市としても、スポーツにも力を入れているというアピールができるのではないかと思っている。
- ・小学校向けに何か今後の展開や予定があるか。

(スポーツ課)

- ・小学生だとなかなかクラブや部活がないため、今まで実施できていなかったが、今年度は小学生を対象にバレーボール教室を行った。トップレベルの選手を見ることができ、指導を受けることができ、女子バレーボールが全部の中学校にあることもあり、非常に人気が高かったので、今後も続けていきたい。
- ・ハンドボールも日本リーグで3連覇を達成している超強豪のチームではあるが、中学校の部活動では2校しかないという状況になっている。スポーツ資源に恵まれているのに、指導を受けられないのは残念なことであるので、ハンドボールチーム豊田合成さんの中にあるクラブチームや、ハンドボール協会さんの中で教室を開催していただいている。
- ・小学校の時にスポーツ少年団で活動していても、中学校で部活動がないというのも非常に残念なことであるが、市内9中学校の中で部活動の種類は本当に少なくなっている。
- ・部活動をなかなか選ぶことができない状況になっており、また、子どもの人数が減ってくると、チームの編成ができないということもある。そういった問題もあり、中学校の部活動を地域移行するというのも一つの考え方になる。学校ではなく他のところで活動していけるよう、受け皿作りということも今後出てくることだと思っている。
- ・中学校の部活動に指導者の派遣や、指導者も人手不足なので、2・3校を集めて、そこへ指導者を派遣するという考え方や、そもそも中学校での部活動をやめて、既存のクラブチームやこれから始めるクラブチームが受け皿になるなど様々な方法があると思うが、アンケート調査を行い、どのように地域移行を進めていくかが今後の課題になると思っている。
- ・陸上競技場では陸上教室を小学生対象に開催している。残念ながら、稲沢市には陸上部がなくなってしまったので、受け皿として、陸上協会の力を借りて教室も行っている。スポーツ協会に属しているそれぞれのスポーツ団体があるので、そういったところの力を借りながら、小中学生のスポーツ支援をしていきたいと思っている。

(G委員)

・各課の社会教育目標についてこの通り進めてもらえればと思う。素晴らしい内容だと思う。

・部活動の地域移行について、「学校教育課を中心に組織した稲沢市部活動地域移行検討委員会で、調査研究を進めてまいります。」とあり、学校教育課中心に生涯学習課やスポーツ課も関わってくる話だと思うが、先日学会に出席したときもスポーツ庁から部活動の地域移行を進めていきたいと話があった。先ほど、調査研究でアンケートを実施するという話をスポーツ課から話があったが、アンケートの対象はだれか。

(スポーツ課)

・対象は小学校5年生から中学校2年生までの児童生徒とその保護者と教員にそれぞれアンケートを取らせていただく。教員には、部活動の指導をしてもいいという方は、指導していただくことになるので、部活動をするかしないかについてアンケートを実施する。

(G委員)

・スポーツ庁からおそらく補助金が出るかと思う。岐阜県では休日の部活動をクラブに任せていて、補助金が出ているが、補助金の申請というのはどうされるのか。

(スポーツ課)

・現在、スポーツ課としては申請する予定はないが、すでに学校の部活動に指導員がおり、その方に対する補助は出ている。国でも地域移行に関して様々な補助メニューがあり、アンケートを取った来年度以降に、指導者を派遣するとか、委託するとか、企業チームの指導を受けるとか、様々なパターンがあるので、稲沢市内全部で一緒に実施するのは難しいので、モデルケース等を作りながら、実施していきたいということを部活動地域移行検討委員会で話をしている。

(G委員)

・検討委員会のメンバーはどういった構成か。

(スポーツ課)

・検討委員会のメンバーは、スポーツ関係では、スポーツ協会代表、スポーツ少年団代表、それから地域総合型スポーツクラブを運営している祖父江地区体育振興会連絡協議会、平和地区体育振興会。生涯学習関係では、吹奏楽団が中心になることから音楽協会代表。他には、PTA関係者2名、校長先生が2名、教員代表として2名が検討委員会のメンバーとなっている

(委員長)

・お聞きしていきかけたのは、去年とどこが違うか、何故違うかがわかるかというと思った。

・委員の皆様から、来年の事業に盛り込むといいのではないかとということや、配慮してほしいということがあれば、お聞かせいただきたい。これについては、委員長、副委員長でも生涯学習課にメールでもどんな方法でもいただければと思う。それを見せていただいて、私と副委員長で、確認をさせていただき、次に活かしていただけるよう持って

いくということでしょうか。

(E委員)

・部活動の地域移行のことをなぜホームページに載せないのか。部活動地域移行検討委員会の会議録をホームページに載せて情報を発信しなければいけない。

・まちゼミは社会教育と捉えていいか。

(生涯学習課)

・生涯学習の上に、社会教育がある。全て学校教育以外の学びは、社会教育というのが社会通念上の社会教育であるので、人が学ぶということで、社会教育と捉えられる。ただ、全部を生涯学習課ではできないというところで各課に分かれているが、先ほどいただいた意見をお伺いして、また考えていきたいと思う。

(E委員)

・主要事業に係る取り組みシートに地域学校協働活動の来年度のことが、何故ここになのか。まだ途中で大事なことを記載しないのか。

(生涯学習課)

・本課としては来年度の新規事業を記載させていただいたというところ。わざと抜いたとか他意はなく申し訳ないが、御理解をお願いしたい。

(委員長)

・社会教育全体、生涯学習全体を通して、方向性が頭にあるとわかりやすいということは前から申し上げてるところ。そういったところもまた配慮いただけるといい。

3 その他

特になし

〈午後3時50分閉会〉